

第42回英語スピーチコンテスト
大阪・メルボルン姉妹都市協会会長賞

谷口 敦子

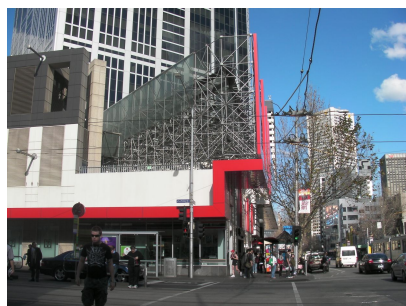
出発の日にはなぜか驚くほど気が重く、もう行きたくない
とまで思いました。この夏休みは、通訳のインターンシッ
プでとても充実しており、離れるのが急に恐くなったから
だと思います。

一人で長時間飛行機に乗り、去年のスピーチコンテスト
を思い出して、改めて指導してくれた先生、応援してくれ
たクラスメイト、支えてくれた家族、きっかけを与えてチャ
ンスをくれた友達に感謝するべきところ、まだまだ気持は
重いままでした。

空港で出迎えてくれたメルボルン市役所のシェーンさ
んが簡単な市内観光を、とドライブしてくれ、素敵なテラス
で朝食を御馳走していただき、ホストファミリーのもとに
連れて行っていただきました。

ホストマザーはとても素敵な方で、緊張気味の私を温かく
迎えてくれました。家族はみな仲が良く、いつもお客さん
がいて、ほかの国からの留学生もいてとても賑やかな
家でほっとしたのを覚えています。元シェフだったことも
あり、ご飯はとてもおいしくて、3週間でしっかり3キロ大
きくなっていました。ホームステイしたウエスト・ブランスウ
ィックという地域は独特で、今ではメルボルン中心地より
も懐かしく思います。

オーストラリアは初めてだったのですが、カナダのビク
トリアに留学していた私は、とても懐かしい気持ちになる
ほど、雰囲気似ておりスツとなじむことができました。冬
だったのでとても寒かったのですが、とても美しい場所
でした。



企業インターンで働かせていただいた企業は全部で3
社あり、1社目の Wilpak では従業員の年齢が私と近か
ったこともあり、すぐに仲良くなり、最初の友達もできました。
仕事内容は基本的に翻訳。翻訳専攻の私には願っても
ない仕事でした。自分の知らない分野の翻訳に最初は
戸惑いましたが、新しいことを学べ、とてもいい経験となり
ました。いままで経験のなかった、企業リサーチや日本の
大手企業との会議にも参加させていただき、1週間
には多すぎる

素晴らしい経験の連続でした。金曜日のカジュアルデー
には、みなスーツではなくジーンズで出勤し、私の最終
日ということもあり、1週間しかいなかった私のために小さ
なさよならパーティーまでひらいてくれました。そのころ
には、出発の日にあれほど重かった気持はすっかり晴れ
ていました。



2週目はメルボルン大学でのお仕事でした。たった2
日間だったのですが、翻訳や先生方の日本への研修旅
行の旅程、予算を考えるとというまた新しい経験をさせて
いただきました。日本では、仕事をこれほどまでに任せら
れることがなかったので、とても光栄でした。

お世話をしてくれたレネはランチにも連れて行って
くれ、友達を紹介してくれ、話を聞いているうちに、日本人
とオーストラリア人の仕事に対する気持ちの違いにも気
付きました。自分のキャリアアップやスキルアップのため
に転職を繰り返すのが当たり前のアーストラリアの実態を
聞き、なんて向上心のある人たちなのだと感心しました。
嫌になったから、飽きたからなどの理由で仕事を辞めて
しまう人が多い日本と大違いで、それがまかり通る日本の
弱さ、向上心のなさに驚きました。1つの会社に長くいる
ことがなにより大切と思われている日本では、その会社で
何ができるのか、自分の力をどのように生かせるか考
えるのではなく、耐え忍んで生き延びた人が素晴らしいと
されている気がしました。出る杭が打たれる社会で育った
日本人はやはり、自分の意見を言うことをためらってしま

い、世界に出たときに弱いといわれる原因なのではないかと考えさせられました。

最後にインターンをさせていただいたのは enotia というソフトウェアの会社で、こちらでも翻訳をさせていただきました。日本語で説明されてもわからないような、未知の世界で、その上トレードショーに向けてのデモホームページの翻訳という大役で、3社の中でも1番プレッシャーのかかる仕事でした。社長のトニーは毎晩飲み連れて行って、仕事以外でも、私のメルボルン滞在を素晴らしいものにしてくれました。



平日は毎日会社へ行き、大好きな翻訳をして、ホストマザーの作るおいしいご飯を食べて、ルームメイトと遅くまで話し込み、週末には友達と朝まで騒いで、本当に夢のような3週間でした。

こんな素晴らしい3週間になったのは、とくにメルボルン市役所のシェーンさんのおかげです。それぞれの会社の初日にはかならず一緒に行ってくれて、いつも気にかけてくれ、信じられないくらいたくさんのお茶を御馳走してくれて、翻訳に興味があると伝えると、いろんな資料や学校の情報を調べてくれ、行きたいと言えば動物園のチケットなどを手配してくれるなど、わがままな私に本当によくしていただきました。

自分がまずスピーチコンテストに参加するというのが奇跡なのに、賞をいただいて、メルボルンに行くことができるなんて、帰ってきた今もまだ信じられない気持ちです。翻訳をやっていきいたいという気持ちを再確認することができ、今ある状況に満足するのではなく、より良く、より高くあがっていく気持ちを持つことができました。このような機会を与えてくれた、すべての関係者の方々にとっても感謝しています。また、怠け者の私を信じて背中を押してくれた友達に心から感謝します。ほんとうにありがとうございます。立派な翻訳家になり、この経験をたくさんの人に伝えることで恩返ししたいと思っています。